研究区分	教員特別研究推進　地域振興

研　究 テーマ	文学の地域資源としての活用――駿河・伊豆エリアⅡ				
研究組織	代　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川　光洋
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	細川　光洋

講演題目

文学の地域資源としての活用――駿河・伊豆エリアⅡ

研究の目的、成果及び今後の展望

【目的】文学作品を「地域の文化資源」としてとらえ、文学を通して地域の魅力を広く発信していくことが本研究の目的である。「文化資源」という概念は、木下直之氏の発案によるものだが、文化芸術を活かした地域の振興、あるいは地域教育とツーリズムという形で、様々な取り組みがされている。

その実践として、2018 年度以来、焼津小泉八雲記念館（焼津市）、藤枝市文学館（藤枝市）、中勘助文学記念館（静岡市）の３館と連携し、2019 年度には芹沢銈介美術館（静岡市）を加えて、駿河の文化施設をめぐる新しい〈文学ツーリズム〉の可能性をさぐる「するが文化の散歩道」ツアー企画を提案・開催。コロナ禍においては、2020 年度から４館を巡るスタンプラリーを開催している。

【成果】駿河エリアに加え、前年度から引き続き、湯ヶ島の檸檬忌実行委員会や安田屋旅館（沼津）長倉書店（修善寺）と連携し、伊豆エリアでの活動を本格化させていった。

① 新生第八回湯ヶ島檸檬忌ならびに「前夜祭」への企画・開催協力（5/13-14）

実行委員会と打合せを行い、檸檬忌前夜祭として梶井の小説に因んだ「闇の絵巻」散歩を実施。梶井の滞在した旧湯川屋での開催となった 14 日の檸檬忌では、会場設営・受付などを学生が担当し、細川が「梶井基次郎と〈視る〉こと」と題して八木惠子氏（埼玉大学名誉教授）と対談を行った。

② 「するが文化の散歩道 スタンプラリー」台紙パンフの刷新とノベルティグッズの制作（7-9 月）
スタンプラリー vol.6 の開催（10/7～1/14）

駿河エリアは、スタンプラリーによる「するが文化の散歩道」の継続開催としたが、学生の発案によりスタンプ台紙を文庫サイズに一新。スタンプデザインも文学や地域に因んだ新デザインとした。また、若い参加者にアピールするものとして、各館にオリジナルな猫のキャラクターを作成し、バッグのデザインに活かした。猫キャラクターは非常に好評で、会期中に用意したノベルティがすべてなくなった。「静岡新聞」10/16 には写真入り記事で「県大生協力、文庫サイズの台紙に刷新」の新しいスタンプラリー開催として大きく紹介されている。SNS での学生の発信も参加増に貢献した。

③ 伊豆文学祭「全国文学サミット in 伊豆」（10/15）コーディネーター、大学コンソーシアム講義「伊豆と文学」（11/12）、改訂版『伊豆文学散歩』（長倉書店）への寄稿(12 月)

伊豆関連の講演、執筆などを積極的に引き受け、伊豆で仕事を展開する地ならしとなる一年であった。

【今後の展望】「するが文化の散歩道」企画は冊子やスタンプを刷新し、各館の猫キャラクターも好評を得ている。県内で文学館同士が連携して行う企画はほかになく、〈文学ツーリズム〉の取り組みはアイディアを出し合う新しい場の創出に繋がっている。駿河エリアの取り組みと伊豆エリアをどう結びつけていけるかが今後の課題となるといえよう。